

マルコの福音書 3章 7-19 節 霊的戦いに臨む

今日はマルコの福音書 3章 7 節から 19 節を見ていきたいと思います。この箇所は実際には 2 つの内容の異なる部分から構成されています。前半の 7-11 節では、いやされたいと願う群衆という私たちが何度か取り上げた同様のテーマを多く扱っています。そこで、この箇所を、イエスが使徒たちを任命する 13-19 節と結びつけたいと思います。この二つの出来事から、私たちの主イエスの弟子としての召命には、霊的戦いを行うためにこの世に遣わされることが含まれていることがわかります。霊的戦いについては、正直言って奇妙な考え方がたくさんあり、人によっては考えるのも恐ろしい話題かもしれない。しかし、イエスに従う私たちは皆、善対悪、神対サタンという、太古の昔から存在する宇宙規模の戦いに参戦していることを認識しなければなりません。**エペソ人への手紙 6章 12 節** はいまも真理であり現実です。**12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。** 霊的な戦いは現実であり、キリストに従う者としての私たちの使命の一部です。今日、この聖書箇所を読みながら、イエスがどのように私たちに召し出し、また私たちが置かれている霊的戦いに備えておられるかを見ていきたいと思います。マルコの福音書 3章 7-11 節を読んでいきましょう。

マルコの福音書 3章 7~11 節 7 それから、イエスは弟子たちとともに湖の方に退かれた。すると、ガリラヤから出て来た非常に大勢の人々がついて来た。また、ユダヤから、**8 エルサレム**から、**イドマヤ**から、**ヨルダンの川**向こうや、**ツロ**、**シドンのあたり**からも、非常に大勢の人々が、イエスが行っておられることを聞いて、みもとにやって来た。・**9** イエスは、群衆が押し寄せて来ないように、ご自分のために小舟を用意しておくよう、弟子たちに言われた。**10** イエスが多くの人を癒やされたので、病気に悩む人たちがみな、イエスにさわろうとして、みもとに押し寄せて来たのである。・**11** 汚れた霊どもは、イエスを見るたびに御前にひれ伏して「あなたは神の子です」と叫んだ。

この最初の箇所は、この時期のイエスのミニストリーの範囲を示しています。マルコ 1 章を振り返ってみると、バプテスマのヨハネの宣教はエルサレムとユダヤ地方にしか及んでいなかったことがわかります。マルコ書 1 章 5 節はこう言っています。

マルコの福音書 1章 5 節 ユダヤ地方の全域とエルサレムの住民はみな、ヨハネのもとにやって来て、自分の罪を告白し、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。

バプテスマのヨハネは人気がありましたが、イエスの人気は全域に広がり、イスラエルの国境をも越えていっていました。この地図上のグレーの円は、バプテスマのヨハネのために人々が集まってきたエルサレム・ユダヤ地域を表しています。上から下にかけての灰色の円は、ガリラヤ海付近でイエスの周りに集まった群衆の中の人々がイエスを見に来た具体的な地域をすべて表しています。

マルコの福音書でも、大勢の群衆がイエスのもとにやってくる様子が描かれていますが、地図を見てもわかるように、彼らは本当に遠方から来ているのです。イエスは、事態が手に負えなくなった場合に備えて、脱出プランまで考えていました。舟を用意したのは、群衆から逃れるためというよりも、イエスが話している間、群衆を寄せ付けない方法を提供するためだったのかもしれませんが。群衆があまりにも多いので、岸にいる人々に教えるためにイエスが舟に乗ったという例が少なくとも他にもう一つあります。

ルカの福音書 5章 1-3 節 1 さて、群衆が神のことばを聞こうとしてイエスに押し迫って来たとき、イエスはゲネサレ湖の岸辺に立って、**2** 岸辺に小舟が二艘あるのをご覧になった。漁師たちは舟から降りて網を洗っていた。**3** イエスはそのうちの一つ、シモンの舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして腰を下ろし、舟から群衆を教え始められた。

癒しのミニストリーだけでなく、イエスは神の子としての権威を認める悪霊たちとも定期的に関わっていました。いつものように、イエスは彼らに誰にも言わないように指示しました。これについては以前にも推測したことがありますが、ここでの悪霊との交流は、イエスが神の子として持っていた絶対的な権威を示すためのものです。悪魔たちは、人間から見れば恐れられ、無限に見える霊的な力を象徴する存在でした。その彼らがイエスの御前に **御前にひれ伏した** のです。今は、新約聖書によく見られるような活発な悪魔の活動は見られないかもしれませんが、それは

存在しないという意味ではありません。ただ、今はそれを説明する別の方法を見つけたり、薬やその他の手段で症状をごまかしたりしているだけなのです。しかし、冒頭の聖句、エペソ 6 章 2 節で指摘したように、私たちは今日も霊的戦いに関わっています。

そして、悪魔的な活動は確かに存在しますが、現代社会の多くのテクノロジーに取りつかれ、それに目を奪われているために私たちの霊的な目が周囲の霊的な活動を見えなくされている可能性があります。この最初のセクションから学ぶべき点は 2 つあります。1. イエスが地上におられた時代に存在した霊的戦いは、今日でも存在すること。そして 2. 霊的な悪に対するイエスの霊的権威は、今日でも変わらないこと。この 2 つの事実を念頭に置いて、12 使徒の任命を見る次の 13-19 節を見てみましょう。そして、これらの聖書箇所をつなげていきましょう。

12 イエスはご自分のことを知らせないよう、彼らを厳しく戒められた。13 さて、イエスが山に登り、ご自分が望む者たちを呼び寄せられると、彼らはみもとに来た。14 イエスは十二人を任命し、彼らを使徒と呼ばれた。それは、彼らをご自分のそばに置くため、また彼らを遣わして宣教をさせ、15 彼らに悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。16 こうしてイエスは十二人を任命された。シモンにはペテロという名をつけ、17 ゼベダイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、この二人にはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。18 さらに、アンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、19 イスカリオテのユダを任命された。このユダがイエスを裏切ったのである。

この使徒の任命は、特にイエスに従うとはどういうことかをテーマとするマルコ書においてはとても重要です。前の数節で見たような大勢のフォロワーたちの中から、イエスはたった 12 人を召しだし、任命します。もちろん、ペテロ、シモン、アンデレ、ヤコブ、ヨハネ、マタイ、レビが召されたことは、福音書記者のマルコによって語られています。しかし今、私たちは 12 人の弟子たち、あるいは使徒たち全員を紹介されます。初めてペテロと呼ばれたシモンがいます。

もちろん、本書の学びの冒頭で述べたように、マルコが私たちのために詳述している出来事を実際に語っているのはペテロです。それからヤコブとヨハネがいますが、彼らは互いに喧嘩が絶えなかったか、あるいはかなり乱暴な性格だったらしく、イエスは彼らを "雷の子" と呼ばれました。ボアネルゲスとはヘブライ語で、うるさい、あるいは短気であることを意味します。そして、彼らについてそれ以上のことは語らずに、アンデレ、フィリポ、バルトロマイ、マタイ、トマスを挙げています。

ゼベダイの子ヤコブであり、ヨハネとタダイの兄弟であるヤコブと混同されないように、アルパヨの子と呼ばれる別のヤコブがいました。そして、弟子の一人シモンが熱心党員であったことが明確に記されています。熱心党とは、ローマ帝国が支配するイスラエル政府を転覆させ、イスラエルから追い出す目的で、ユダの人々をかき乱そうとする革命家の政治運動です。そして最後に、ユダの名前が最初に出てきたときから、彼がイエスを裏切り、十字架につけられることになると言われていました。

最初の使徒として任命されたキリスト信者は、なんと多様な人々であったことでしょうか！今日誰一人として使徒と任命されることは決してありません。なぜならば、物理的にイエスと時間を過ごしている間に、イエスから直接使徒として任命される必要があるからです。しかし、私たちは皆、イエス・キリストに従う者となることができ、またそうなるように召されています。そして、教会のクリスチャンとして私たちはイエスの弟子であると主張しています。最初の使徒たちは皆同じではありませんでした。漁師であったり、徴税人であったり、政治的な動機を持った革命家であったりしました。イエスが復活と昇天の後に超自然的に召された最後の使徒、使徒パウロは、高度な教育を受けたユダヤ人パリサイ派であり、非常に価値の高いローマ市民権を有していました。これらの人々は皆、当時の人々が知っていた彼らから、キリストを宣べ伝えることで知られる神の民へと変えられました。そしてこれは、イエスが今日キリストに従う私たちに望んでおられる変化と同じです。イエスは、あなたが罪を悔い改めてキリストに従うとき、あなたがどこにいようとも、あなたをご自分の弟子として望まれる姿に変えてくださるのです。

この男たちはイエスが必要とする捧げられるものを何も持っていませんでした。ペテロ、アンデシ、ヤコブ、ヨハネからは魚を必要としませんでした。レビ又はマタイから税金対策の指南を受ける必要もありませんでした。また、シモンの旧友たちとともにローマ打倒の運動を指導したり、その一翼を担おうとしていたわけでもありませんでした。それどころか、弟子であるということは、彼らがキリストのために何ができるかということではなく、キリストが彼らをどのように変えられるかということでした。イエスは、あなたがどんな経歴の持ち主であろうと、あなたを彼の弟子にしてください。この弟子作りは、完全に一对一の個別指導ではなかったことに注目してください。実際、それは他の弟子たちとの共同体の中で行われ、キリストと共に過ごし、キリストから教えられ、キリストのようになることを学びました。歴史的に教会は使徒の働きから始まることは承知していますが、12弟子の中に、教会のあるべき姿の最初の描写がありません。その核心は、教会とは、イエスを知り、愛し、イエスのメッセージをもって世に遣わされるために共に成長するための多様な背景を持つキリスト信者の集まりなのです。そして、私が注目し、先ほどの箇所と結びつけたいのは、この世に遣わされることです。14節と15節をもう一度見てください

14 イエスは十二人を任命し、彼らを使徒と呼ばれた。それは、彼らをご自分のそばに置くため、また彼らを遣わして宣教をさせ、15 彼らに悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。

使徒という言葉は、文字通り "遣わされた者" を意味します。しかし、この遣わされた者とは、弟子や従う者でもあることを覚えておいてください。つまり、私たちはイエスから直接的に遣わされるという意味では使徒ではありませんが、遣わされているのです。マタイの福音書 28 章 18-20 節の大宣教命令は私たちを同じように遣わします。

マタイの福音書 28 章 18-20 節 18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。『わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。』 私たちは皆罪人であり、イエスは罪人のために死なれたのです、と言う福音全体を宣べ伝えることによって私たちは弟子を作ります。そして、罪の刑罰からの救いは、悔い改めてイエスを主であり救い主として受け入れることによって見出すことができます。サタンは、誰一人としてイエス・キリストの弟子や信者になることを望んでいません。そうならないためなら、彼はどんなことでもします。

コリント人への手紙 第二 4 章 3-4 節 3 それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。4 彼らの場合は、この世の神が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる福音の光を、輝かせないようにしているのです。

コリント人への手紙二で、この世の神と呼ばれているサタンは、人々の心を福音が見えなくするためにあらゆる手を尽くしています。これが霊的戦いです。イエスはその権威によって悪魔に立ち向かったときに従事したことであり、イエスが弟子たちに霊的戦いを行う権威を与えたときに弟子たちを遣わして行かせたことでもあります。そしてそれは、弟子を作るために遣わされ、福音に触れる人々の魂のために霊的戦いを行うイエスの弟子として、あなたと私が召されていることなのです。マタイの福音書 28 章 18 節を読むと、イエスが御自身の権威を大宣教命令に結び付けていることに気づいてください。前の数節で見たことと結び付けてみましょう。1. イエスが地上におられた時代に存在した霊的戦いは、今日でも存在します。そして 2. 霊的な悪に対するイエスの霊的権威は、今日でも変わりません。さて、3 番を見ると、使徒たちと同じように、私たちが霊的戦いという同じ使命を持って遣わされていることがわかります。これらの箇所では、イエスの継続的な働きと、使徒となった 12 人の弟子たちへの召命と任命の両方において、悪霊を

追い出すという考え方に焦点が当てられています。悪霊を追い出すという問題に水を差したくありません。悪霊は現実に存在し、今日でも悪霊に取り憑かれた人々に出会うかもしれません。しかし、私たちのほとんどには、霊的な戦いはそれほど劇的なものではなく、使徒たちのようにイエスの福音のメッセージを携えて出て行くときに直面する頑なな閉ざされた心や拒絶の中にあります。神が私たちを遣わされたこの世界に出て行くたびに、私たちは霊的な戦いを強いられているのです。私たちは霊的な戦いから始まりました。そして霊的な戦いで終わるべきなのです。 **エペソ人への手紙 6章 12節 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。**

一週間を過ごし、キリストの使命に生き、キリストの人生の目的に従って生きようとしている皆さんは、霊的な敵対に直面するでしょう。しかし、その敵対する相手から逃げるのではなく、キリストの力である弟子たちが持っていたのと同じ権威をもって、喜んでその敵に立ち向かわなければなりません。この霊的な戦いは、エクソシズムを实践する現代の牧師たちが伝えるものとは似ても似つかないです。それは祈りと、特定の状況への聖句の適用を通して行われます。現代の解放のミニストリーにおける叫び声や極端なデモンストレーションは、イエスのミニストリーや弟子のミニストリーとは全く異なります。神の御言葉とキリストご自身の権威に頼るのではなく、悪魔を見つけ、悪魔を叱責する私たち人間の能力を誇示しているように見えます。

むしろイエスは、霊的な戦いを、世界に福音を宣べ伝えるという私たちの召命の通常の一部として含んでおられるのです。それは求めるべきものでも避けるべきものでもなく、私たちが闘う霊的な力よりも偉大な権威を持つイエス・キリストとの関係を確認することなのです。

もちろん、イエスの弟子たちの中に一人、イスカリオテのユダという偽りの弟子がいたことは覚えておかなければなりません。彼はサタンと霊的な戦いをすることができませんでした。むしろ、サタンは彼を自分の目的のために用いて、イエスを裏切って死なせたのでした。もちろんサタンは、このことが最初から神の御計画の中にあつたことを知る由もありませんでした。ですから私たちは皆、弟子たちのグループの一員であること、たとえ教会そのものであっても、キリストの真の信者になれるわけではないというこの真理に照らして、自分自身を吟味しなければなりません。キリストと自分の心の関係を知っているのは自分だけであり、自分が本当にキリストの教会の一員であるかどうかを知っているのも自分だけなのです。

このキリスト信者のグループは、イエスを知り、イエスを愛するために共に成長し、イエスのメッセージを携えて世に遣わされるために、多様なバックグラウンドを持っています。希望を与えるメッセージは、私たちを戦いに駆り立てます。その霊的な戦いには男女や少年少女が、罪とサタン自身からの霊的な救いをもたらすイエス・キリストの福音の光を理解し、サタンの目くらましに打ち勝つ姿を目の当たりにするというその代価に以上の素晴らしい成果が待っているのです。祈りましょう。

Mark 3:7-19 Engaging in Spiritual Warfare.

Today in the book of Mark, I want us to look at Mark 3:7-19. These are actually two different sections, but the first part verses 7-11 deals with many of the same themes we have covered several times with crowds wanting to be healed. So, I want to connect the passage together with verses 13-19 where Jesus appoints his apostles. In these two events, we see that our calling as disciples of our Lord Jesus involves being sent into this world to do spiritual warfare. There are a lot of honestly weird ideas about spiritual warfare, and for some it may even be a scary topic to think about. But we have to realize that all of us who follow Jesus are engaged in a cosmic battle that has existed since before time of good versus evil and God versus Satan. [Ephesians 6:12](#) is still true. [12 For we do not wrestle against flesh and blood, but against the rulers, against the authorities, against the cosmic powers over this present darkness, against the spiritual forces of evil in the heavenly places.](#) Spiritual warfare is real, and part of our calling as followers of Christ. As we read this passage today, **I want us to see how Jesus both calls and prepares us for spiritual war that we are in.**

Let's begin by reading verses 7-11 of Mark 3. [7 Jesus withdrew with his disciples to the sea, and a great crowd followed, from Galilee and Judea ⁸and Jerusalem and Idumea and from beyond the Jordan and from around Tyre and Sidon. When the great crowd heard all that he was doing, they came to him. // ⁹And he told his disciples to have a boat ready for him because of the crowd, lest they crush him, ¹⁰for he had healed many, so that all who had diseases pressed around him to touch him. // ¹¹And whenever the unclean spirits saw him, they fell down before him and cried out, "You are the Son of God."¹² And he strictly ordered them not to make him known.](#) This first section shows us the extent of Jesus's ministry at this time. If we look back at Mark 1, we see that John the Baptist's ministry only extended to Jerusalem and the Judea area. [Mark 1:5 says ⁵And all the country of Judea and all Jerusalem were going out to him.](#) John the Baptist was popular, but Jesus's popularity had extended across the entire region, even outside of Israel. The gray circle on this map represents the Jerusalem Judea area that people came from for John the Baptist. The gray circles covering top to bottom represent all the areas specifically mentioned where people came to see Jesus in the crowds gathered around him near the Sea of Galilee. Again in Mark we see the massive crowds coming to Jesus, and as we can read and see on the map, they are coming from really far away. Jesus had even come up with an escape plan in case things got out of hand. Having a boat prepared to leave may not have been so much trying to get away from the crowds, but trying to provide a way to just not crowd him while he talked. We have at least one example of Jesus getting into a boat to teach those on shore because of the extent of the crowds. [Luke 5:1-3 says, ⁵On one occasion, while the crowd was pressing in on him to hear the word of God, he was standing by the lake of Gennesaret, ²and he saw two boats by the lake, but the fishermen had gone out of them and were washing their nets. ³Getting into one of the boats, which was Simon's, he asked him to put out a little from the land. And he sat down and taught the people from the boat.](#)

In addition to healing, Jesus was regularly interacting with demons who recognized his authority as the Son of God. As usual, Jesus instructed them not to tell anyone. We have speculated on this before, but here the interaction with the demonic is meant to demonstrate the absolute authority that Jesus had as the Son of God. These were demons who represented spiritual power that was feared and seemed unlimited from a human perspective and yet, these spiritual beings "[fell down before](#)" Jesus. Now, we

may not see active demonic activity in the way that seems so common in the New Testament, but that doesn't mean it is non-existent. It just means that we have found different ways to explain it now, or cover up the symptoms now through medication or some other means. But as we pointed out in the Scripture we began with, [Ephesians 6:12](#), we are still involved in spiritual warfare today. And demonic activity does exist, but possibly is not as evident on the surface of modern society that is obsessed with so many technological things that our spiritual eyes are blinded to the spiritual activity around us. There are two aspects to take away from this first section. **1. The Spiritual warfare that existed in Jesus's time on earth still exists today. And 2. Jesus's spiritual authority over spiritual evil is still the same today.**

With those two facts in mind, let's look at the next section, verses 13-19, where we see the appointing of the 12 apostles, and then connect these sections together. **13 And he went up on the mountain and called to him those whom he desired, and they came to him. 14 And he appointed twelve (whom he also named apostles) so that they might be with him and he might send them out to preach 15 and have authority to cast out demons. // 16 He appointed the twelve: Simon (to whom he gave the name Peter); 17 James the son of Zebedee and John the brother of James (to whom he gave the name Boanerges, that is, Sons of Thunder); 18 Andrew, and Philip, and Bartholomew, and Matthew, and Thomas, and James the son of Alphaeus, and Thaddaeus, and Simon the Zealot, 19 and Judas Iscariot, who betrayed him.** This appointing of the apostles is significant, especially in the book of Mark where the theme centers on the idea of what it means to follow Jesus. Out of that huge crowd of followers that we saw in the previous verses, Jesus calls just 12 men and appoints them. Now, of course previously, we have been told by the writer Mark about the calling of Peter or Simon, Andrew, James, John and Matthew or Levi. But now we are introduced to all of the 12 disciples or apostles. There is Simon, who for the first time is called Peter. Of course as we discussed at the beginning of this book, Peter is actually the one telling the events that Mark is recounting for us. Then there are James and John, and apparently they fought so much with each other or were just pretty rowdy characters that Jesus called them "Sons of Thunder." Boanerges is from Hebrew and suggests being loud or possibly hot-tempered. Then without telling us much more about them, he lists Andrew, Philip, Bartholomew, Matthew, Thomas. There was another James called the son of Alphaeus so he wasn't confused with being the being James the son of Zebedee and brother of John and Thaddaeus. Then we are specifically told that one disciple Simon was a Zealot. These was a political movement of revolutionaries who were intent on stirring up the people of Judah with the intent of overthrowing the Roman controlled government of Israel and forcing them out of Israel. And finally, he names Judas, who we are told from the very first mention of his name that he would go on to betray Jesus and lead to his crucifixion.

What a diverse group of followers of Christ who were appointed as the first apostles?! Now let's clarify right up front that no one can be appointed as an Apostle today, because it takes direct appointment from Jesus while you are physically spending time with him. But all of us can and are called to be followers of Jesus Christ, and in the church as Christians, we are all claiming to be disciples of Jesus. These first apostles were not all the same. They were fishermen, a tax collector, a politically motivated revolutionary. The last apostle who Jesus supernaturally called after his resurrection and ascension, the Apostle Paul, was a highly educated Jewish Pharisee with highly valued

Roman citizenship. All of these men were changed from what the people of their day knew them for into being the people of God known for proclaiming Christ. And this is the same change that Jesus wants to do in those of us who follow Christ today. He takes you wherever you are at when you repent of your sins and follow Christ and makes you into what he wants you to be as his disciple.

These men had nothing to offer to Jesus that he needed from them. He didn't need fish from Peter, Andrew, James and John. He didn't need tax advice from Levi or Matthew. He certainly was not trying to lead a movement or be part of a movement to overthrow Rome along with Simon's old friends. On the contrary, being a disciple was not about what they could do for Christ, but what Christ could make of these men. Jesus will take you no matter what your background is, and he will make you his disciple. Notice that this making of disciples was not entirely one on one, in fact it was done in community with the other disciples, spending time with Christ, being taught by him and learning to be like him. I know that the church historically begins in the book of Acts, but in the 12 disciples, we have the first picture of what church is supposed to be. At its core, a church is a group of Christ followers who come from a diversity of backgrounds in order to grow together to know and love Jesus and be sent out with his message into the world. And it is this sending out that I want to focus on and connect with our earlier passage. Look again at verses 14 and 15. **14 And he appointed twelve (whom he also named apostles) so that they might be with him and he might send them out to preach 15 and have authority to cast out demons.** The word, apostle, literally means "sent one." But keep in mind these sent ones are also disciples or followers. So while we are not apostles in the sense that we are sent out in a direct way by Jesus, we are sent out. **Matthew 28:18-20** is our Great Commission that sends us out in a similar way. **18 And Jesus came and said to them, "All authority in heaven and on earth has been given to me. 19 Go therefore and make disciples of all nations, baptizing them in the name of the Father and of the Son and of the Holy Spirit, 20 teaching them to observe all that I have commanded you. And behold, I am with you always, to the end of the age."** We make disciples by proclaiming the entire gospel...that all of us are sinners and Jesus died for sinners. And, salvation from the penalty of sin can be found in repentance and acceptance of Jesus as Lord and Savior.

Satan does not want anyone to become a disciple or follower of Jesus Christ, and he will do anything he can to keep this from happening. **2Corinthians 4:3-4** says, **3 And even if our gospel is veiled, it is veiled to those who are perishing. 4 In their case the god of this world has blinded the minds of the unbelievers, to keep them from seeing the light of the gospel of the glory of Christ, who is the image of God.** Satan, called the god of this world here in 2Corinthians is doing everything he can to blind people's minds from the gospel. This is spiritual warfare. It was what Jesus engaged in as he confronted Demons by his authority, and it was what he sent out his disciples to do as he gave them His authority to do spiritual warfare. **And it is what you and I are called to as followers of Jesus who are sent out to make disciples and do spiritual warfare for the souls of people we engage with the gospel.** And notice that he ties His authority into the Great Commission as well as we read in Matthew 28:18. So let's tie this together with what we saw in the earlier verses. **1. The Spiritual warfare that existed in Jesus's time on earth still exists today. And 2. Jesus's spiritual authority over spiritual evil is still the same today. Now, we can see number 3, just like the apostles, we are sent out with that same mission of spiritual warfare.** The focus of both of these passages includes the

idea of casting out demons, both in Jesus's ongoing ministry and his calling and commissioning of the 12 disciples who became apostles. Now, I don't want to waterdown the issue of casting out demons. They are real, and you may encounter demon possessed people even today. But for most of us, our spiritual warfare will not be so dramatic, but it will come in the hardness of hearts and rejection we will face as we go out like the apostles with the message of the gospel of Jesus.

But this brings us back to where we started, that we are in a spiritual war everytime we go into the world that God has sent us into. We started with it and we should end with it. [Ephesians 6:12](#)... [For we do not wrestle against flesh and blood, but against the rulers, against the authorities, against the cosmic powers over this present darkness, against the spiritual forces of evil in the heavenly places.](#) Everyone of you as you go through your week and are trying to live on mission for Christ, following his purpose for your life, will face spiritual opposition. But rather than running from that opposition, we must be willing to face it with the same authority that the disciples had which was the power of Christ. This spiritual warfare does not look like most of what modern day pastors who practice exorcisms convey. It is done through prayer and through the application of scripture to specific situations. The yelling and screaming and extreme demonstrations in modern day deliverance ministries do not resemble anything of Jesus's ministry or the disciple's ministry for that matter. Rather than resting on the authority of the Word of God and of Christ himself, they seem to magnify our human ability to both find demons and rebuke them which Jesus never told us to do. Instead, Jesus just includes spiritual warfare as a regular part of our calling to preach the gospel to the world. It is not something to be sought or to be avoided, but to be confident in our relationship with Jesus Christ whose authority is greater than the spiritual powers we wrestle against.

Of course, we must keep in mind that in Jesus's disciples, there was one false disciple, Judas Iscariot. He could not do spiritual warfare against Satan...rather Satan used him for his own purposes to betray Jesus to His death. Of course Satan could not know that this was in God's plan all along. So we must all examine ourselves in light of this truth that being a part of the group of disciples, even the church itself, does not make you a true follower of Christ. Only you know your heart relationship with Christ, and whether you are really a part of his church. This group of Christ followers who come from a diversity of backgrounds in order to grow together to know and love Jesus and be sent out with his message into the world. A message that gives hope but puts us into a battle. But a spiritual battle that is worth the cost as we see men and women boys and girls overcome the blindness that Satan has them in as they understand the light of the gospel of Jesus Christ that brings spiritual salvation from sin and Satan himself. Let's pray